

京都観光おもてなし作戦 「観光客の本音は」

活動場所：下京区 活動開始：平成28年5月～

京都観光オープンデータ協議会



下京区の各自治連合会
有限責任事業組合タク・タク
NPO法人グローバル人材開発センター

■ 地域が抱えていた課題

京都における外国人観光客数の急増により、ゲストハウスへのニーズが顕著になっている。しかし、アクセス方法や案内看板の情報提示不足などにより、迷っている姿をよく目にする。また、インターネット上の地図情報提供サイトに登録されていない事業所もあり、実態を含めたグローバルな見地による情報集約と情報提供が急務である。

国際的観光都市「京都」の玄関口である下京区の「おもてなし」のひとつとして、京都観光の一助となるものであると考える。

■ 取組（連携）のきっかけ

近年増加する外国人観光客に対し、京都に来て喜んでもらうための、おもてなしは何かを考えた際、宿泊施設の情報及び宿泊施設までの案内が必要であると考えた。また、近隣にゲストハウスが存在する地域においては、ゲストハウスの情報や運営者の顔がわかることが、地域にとっての安心・安全につながる考えたことから始まった。

■ 具体的な連携の取組

学生チームによる①外国人観光客へのアンケート調査 ②ゲストハウスへのアンケート調査 ③地域住民へのヒアリングを実施し、外国人観光客が求めるゲストハウスの情報をWEB上のオープンデータベースに登録。GIS（地理情報システム）を活用した地図情報を作成。また、ゲストハウスには、京都の宿泊に関するマナー等を記した「京都の心得」を作成・配布し、地域住民の安心・安全につなげるとともに、宿泊者がより京都を楽しむきっかけを創出する。

■ 今後の活動

アンケート調査では、学生チームによるフィールドワークも同時進行に行うため、京都の「まち」としての魅力を見直し、魅力の発信や協働事業など、学生と地域の連携に関するアイデアを集約し、インキュベートを行う予定。

■ 成果

①大学・学生の視点

自身が学びのために通っている地域について、改めて見つめなおすきっかけになるとともに、愛着が育まれることを期待している。また、地域とゲストハウス、外国人観光客の間を、利害関係のない第三者の視点で活動できる「学生」がつながることが、三者にとって良い結果が創出されると考える。

②地域の視点

その地で暮らす住民とゲストハウス運営者の双方の考えを基にしたマップを作成することにより、外国人観光客が安心して洛入り、観光できると考えている。それと同時に、地域住民の安心・安全な暮らしにもつながることを考え、国際的観光都市「京都」において、外国人観光客を受け入れる際のロールモデルとなることに期待している。

活動写真



アンケート調査前打ち合わせの様子



アンケート調査前の記念撮影



外国人観光客 アンケート調査の様子①



外国人観光客 アンケート調査の様子②



ゲストハウスでのヒアリング



下京区のフィールドワーク

